

事業の概要															
事業名	一級河川 杉井木川 安全な川づくり事業		事業主体： 栃木県												
事業箇所	小山市押切工区 一級河川永野川合流点（小山市押切） ～ 一級河川上流端（小山市南小林）														
事業の目的、事業発案の経緯・背景	<p>杉井木川は、栃木市境町に源を発し、小山市押切地内で永野川の左岸に合流する流路延長9.2km、流域面積約12km²の河川である。</p> <p>杉井木川の流域は、巴波川と永野川の堤防に囲まれているため、永野川合流点に排水機場を整備し、大雨時には永野川の水位上昇に合わせ樋門を閉めてポンプによる排水操作を実施している。</p> <p>しかし、平成23年9月の台風15号や昨年9月の関東・東北豪雨により浸水被害が発生し、特に関東・東北豪雨では69戸もの床上浸水が生じた。</p> <p>このため、本事業により排水ポンプの増設及び調節池整備を実施し、併せて「小山市排水対策プロジェクト」により小山市が実施する田んぼダムや輪中堤により浸水被害の軽減を図る。</p>														
事業内容	<p>【計画の基本スタンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 排水機場のポンプを増強することにより、杉井木川から永野川への排水能力を高め、浸水被害の軽減を図る。 調節池を整備することにより、ポンプ排水とその最適な組み合わせによる浸水対策の実施。 														
	<ul style="list-style-type: none"> 総延長：約2.2km 計画流量：30m³/s 現況：排水機場ポンプ排水能力 7m³/s 工事内容 【本工事】 排水機場ポンプ増設 5m³/s、調節池整備 約16万m³ 														
事業予定期間	平成29年度～平成38年度	事業見込額及び内訳	<p>総事業費 約23億円</p> <p>事業費内訳</p> <table border="1"> <tr> <td>測量設計費</td> <td>約 1億円</td> </tr> <tr> <td>用地補償費</td> <td>約 2億円</td> </tr> <tr> <td>工事費</td> <td>約20億円</td> </tr> <tr> <td>財源内訳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>国費</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>県費</td> <td>50%</td> </tr> </table>	測量設計費	約 1億円	用地補償費	約 2億円	工事費	約20億円	財源内訳		国費	50%	県費	50%
測量設計費	約 1億円														
用地補償費	約 2億円														
工事費	約20億円														
財源内訳															
国費	50%														
県費	50%														
事業概要図	事業位置図、標準横断面、被災写真（別紙）														
県計画への位置付け	平成29年3月に巴波川圏域河川整備計画を変更し、本事業を位置付ける予定														
他計画・他事業との関連															

事業の評価	
1. 事業の必要性	杉井木川では、平成27年9月関東・東北豪雨において、甚大な浸水被害が発生したことから、地域住民の生命・財産等を守るため、本事業により早期に対策を実施し、浸水被害の軽減を図るものである。
2. 事業の適時性（今事業に着手する理由等）	・近年では、平成23年9月の台風15号や昨年9月の関東・東北豪雨など浸水被害が頻発している。押切集会所のほか市道等の公共施設があることから、早期に対策を実施し浸水被害の軽減を図る必要がある。
3. 事業の適地性	・本事業は、排水機場のポンプ増設および調節池により、浸水被害の軽減を図る計画としている。現況河道は護岸整備済みであることから、現況を活かした整備を行う。
4. 事業手法の適切性（県が事業主体となる理由等）	・一級河川杉井木川の浸水対策を行うものであり、河川管理者として県が事業を実施する。
5. 事業により予想される効果及び影響	<p>○経済効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 費用便益比 (B/C) 1.21 総便益 (B) 24.8億円 ※施設完成後50年間の効果を金銭に換算し現在価値化したもので、治水事業によって得られる家屋(7.8)、農作物(2.9)、公共土木施設(13.2)、その他(0.6)、残存価値(0.3)の被害防止便益の合計である。 総費用 (C) 20.5億円 ※現在価値化した建設費(18.5)と施設完成後50年間の維持管理費(2.0)を加算したものであり、『事業の概要』の「事業見込額及び内訳」とは異なる。 <p>（機能的な効果 ・経済的な効果 ・他計画、他事業への波及効果 ・環境への影響など）</p>
6. 事業コスト削減等の可能性	・掘削残土を工事間利用することで事業コストの削減を図る。
事業の対応方針（案）	本事業については、平成29年度より着手する。

一級河川 柚井木川 事業概要図

位置図



平面図



計画概要

計画延長(km)	2.2
事業種類	河川改修
計画流量 (m ³ /s)	30
現況ポンプ能力(m ³ /s)	7
計画ポンプ能力(m ³ /s)	12
調節池容量(m ³)	16万
総事業費(億円)	23

被災状況



計画平面図



流量配分図



標準横断面図

